

介助犬普及推進室ニュース vol.20 「介助犬に助けられた！ ～『カギを開けて』～」

脊髄損傷の方なら体験したことがある突然の「高熱」。原因は尿路感染だったり、蜂窩織炎だったり・・・高熱が出ると・・・体が固まって動けなくなりますよね。ベッドの上で動けなくなり一人だったら・・・？想像するだけでもこわいですね。

介助犬ユーザーの山内さんが、熱を出しました。こわばった体をなんとか動かして、介助犬ティティーの世話もしていましたが、2日目に体が思うように動かず、応援を呼ぶことにしました。しかし、カギを開けに行けません。ベッドに横たわり「今がその時！」と思ったのが、介助犬の作業「カ

ギを開ける」です。普段、カギの開閉はユーザー自身でできているため、指示を出したことはありませんでした。でも、緊急のために訓練されていました。まさに訓練以来です。山内さんがベッドの上からティティー呼ぶと、とこと

こ歩いてきました。「カギ！」というと、ちょっと首をかしげて考え、リビングのドアを自分で開け玄関方面に！・・・行ったけどそのまま帰ってきました（笑）もう一度「カギ！がんばれ！」と言うと玄関でティティーの気配がしたので『がんばれ がんばれ！』心の中で言い続けました。しばらくして『ガチャッ』カギが開く音が！ちゃんと覚えていたんですね。こうして、無事に山内さんは応援を迎えることができました。

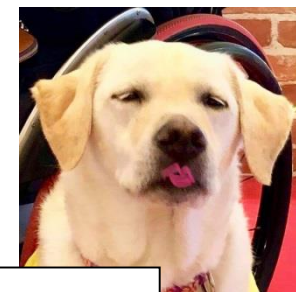
ニコニコと戻ってきたティティーが、たくさんたくさん褒められたのは言うまでもありません。このような、ここぞという時に助けてくれる介助作業は他に「携帯電話を持ってくる」「人を呼ぶ」などがあります。ただでさえ動きにくい体が、体調を崩すと動きたくても動けなかったり、転んだまま動けなかったり・・・なんとか救急隊を呼んでもカギが閉まっている。そんな時に介助犬がいて、携帯電話を持って来て、助けに来る人のために玄関を開けてくれたら？こんなに心強いことはないですね。



困ったときにはまず電話



ちゃんとカギ開けたよー



いつでもそばにいるよ

